

12 ボランティアファンド学生チャレンジ賞（育成・支援プログラム）

職員総括

2016年度のボランティアファンド学生チャレンジ賞では、多くの団体が助成対象となった。従来からの「ジャンプアップ」部門に加え、単発イベント実施を対象とした「スタートアップ部門」が新設された。また、各助成団体に、丁寧にサポート内容を伝え、活動開始後も継続的に支援を行った。

この効果もあり、ボランティアセンターを活用して、ミーティング会場の教室借用申請や、活動に関する相談も増え、各団体との連携も深まったと感じる。これにより、自らの活動を積極的に行うだけでなく、三つの団体が、1 Day for Others のプログラム提供を行い、新入生のボランティア活動への一歩の導き手として活躍した。

2017年度においても多くの団体が助成対象となり、現在活動している。各団体の活動が、社会課題を解決する一助になることを期待したい。（職員 松本剛）

12.1 ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2016 活動報告

「ボランティアファンド学生チャレンジ賞（通称：ボラチャレ）2016」は「社会課題にチャレンジ！」をテーマに募集し、以下のプロジェクトが採択された。各受賞団体に奨励金が授与され、2017年9月末日までそれぞれの活動を行った。

●2016年度助成企画【スタートアップ部門】

プロジェクト名	団体名
戸塚原宿フリーマーケット	明治学院大学ボランティアセンター 横浜地域活動
情熱だけで、どこまでできるのか？	舞台企画 Passion
民族言語保護	渡辺充ゼミ

●2016年度助成企画【ジャンプアップ部門】

プロジェクト名	団体名
教室でできる！発達障がい児への支援を考えようプロジェクト ～未来の小学校教員へ伝えたい私たちの気づき～	教育発達学科 小林ゼミ
未来ワタシ委員会 vol.7	学生有志団体 Link up
DO FOR DOGS in 明学	MG ハロードッグ
GV (global village)	ハビタット エムジーユー Habitat MGU
小学校読み聞かせプロジェクト	おはなしポップコーン
明学防災プロジェクト	ワイ Wゼミ学生

シリア人と日本人の相互理解促進委員会	てんげん 転原バンドゼミ
The Class for ^{スリーシー} CCC (Communication, Cooperation & Confidence)	The Place for Children かわさき

このうち、ジャンプアップ部門8団体の活動について、学生に報告してもらう。大学のゼミから学びを深めた教育支援活動や子どもの学習支援活動のほか、動物愛護活動や女性のライフキャリアを考えるイベントの開催、国際的な課題解決を目指すものなど、それぞれの団体が広い視野を持って多様な社会課題に向き合った。

◇冊子制作を終えて

プロジェクト名	教室でできる！発達障がい児への支援を考えようプロジェクト ～未来の小学校教員へ伝えたい私たちの気づき～
団体名	教育発達学科 小林ゼミ
企画の目的	小学校の教員を目指す同級生等に、私たちが日々のなかで問題意識をもっていた発達障がいのある子どもへの支援について理解啓発を促す

実施概要

通常の学級に在籍する発達障がいのある子どもへの支援の考え方についての冊子（300部）を企画制作し、学生等に配付した。制作にあたり、現職の小学校教員にインタビューをしたり、他学年のゼミ生に意見を求めたりして、より見やすく分かりやすいものを目指してきた。

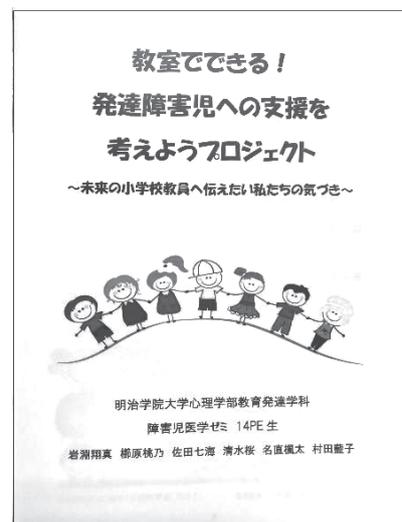
〈主な活動の流れ〉

2016年度 11月	冊子項目検討	2017年度 4月	初稿完成
12・1月	資料収集・草稿執筆	5・6・7月	執筆内容検討
2月	執筆内容検討		印刷打ち合わせ
3月	OGインタビュー	8月	配布計画検討、校正
		9月	原稿完成、製本、配布（300部）

感想・活動を通して得た学び

活動のなかで文章の修正に最も時間を費やし、自分たちの思いを一方的な押し付けでなく、提案する形で言葉にすることが難しいということを学んだ。“どうしたら他人事でなく捉えてもらえるか”同じ教育を学ぶ者に向けて、自分たちにも必要だと思ってもらえるように文体や体裁などを工夫することに最も力を注いだ。

冊子を同級生に配ってアンケートをとった結果、「特別支援教育が必要なことはわかっているが、どうしたらいいかわからなかったからぜひ参考にしたい」などの意見が多く寄せられた。改めて特別支援教育の必要性は感じていても実際にどうしたらいいのかわからず、不安を抱えている学生が多くいる現状を知ることができた。またそのような現状を知ること、私たちが行った活動の必要性を感じることもできた。



今後に向けて

冊子を下級生などにも配り進めることで多くのフィードバック、多角的な視点での感想を得られることが期待される。冊子を通じて多くの人と特別支援教育について考えていきたい。今回制作した冊子を卒業論文の資料として活用する学生もいる。また、港区の小学校の若手教員や教員を目指す学生が集う勉強会での講演も検討している。この冊子を読んだ人が特別支援教育を身近に感じられると想定し、またそれを望んでいる。作成した自分たちも、それぞれの進路先でこの学びを大いに活用していきたいと考えている。



(心理学部教育発達学科)

◇「結婚」「育児」を考える交流の場づくり

プロジェクト名	Kaco×Mira café ～未来ワタシ委員会 vol.7～
団体名	学生有志団体 Link up
企画の目的	世代間交流/女子学生向けキャリア発見企画

実施概要

2012年より団体のコア企画である「未来ワタシ委員会」の第7弾。「女性のライフキャリアを考える」をメインテーマに、過去には社会人女子との交流会や自分を磨く女子学生向け講座を実施してきた。今回は女子学生が持つ「結婚」「育児」をはじめとする女性特有のライフイベントへの漠然とした不安を解消できる場を作りたいという思いから企画が始まった。これは「未来ワタシ委員会」実施回数増加にともない、メンバー内外から聞かれた声に応えるものであった。本企画はNPO 法人こまちぷらすさんにご協力いただき、戸塚地域で働く「お母さん」世代の方をゲストに招いた。世代を超えて行われたワークやトークから、それぞれが少し身近な未来の自分像を考える時間づくりを行った。



感想・活動を通して得た学び

私たちが扱った社会課題は、「女性のライフキャリアの多様化」だった。2012年からという大変短い期間でありながらも、女性の生き方の理想像も現状も大きく変化している。Link up はこれまでも継続的かつ積極的に女性のライフプランを考える企画を行っており、私たちにとってこのことは身近であり大きな問題であった。そのため今回は「ワタシ目線で多様化を考える」を学生側のテーマとし、本企画に取り組んだ。また、ご協力いただいた方々は戸塚地域で働く「お母さん」世代。それぞれが過去を振り返ったり、未来を想像したりといった交流を通じて、より具体的な「ワタシ目線」を見つけることができる企画を考え、本申請企画に至った。活動を通じ、女性の生き方や理想像の変化は自分たちが体感するよりもものすごい速度で変化していると感じさせられた。トーク中にも「今、自分が親だったら」

や「今、自分が学生だったら」と考える展開も見られ、文字どおり過去と未来でのクロストークができ、自分のことを前向きに考えることができるようになったとの意見も聞かれた。「自分」と「他者」の対話の場から自分自身を見つめ直し、世代を超えた緩やかな交流の場を作ることができたということが最大の学びであった。



今後に向けて

「お母さん」世代の方をゲストに迎え、お話を伺うなかでさらに多様な生き方を実践する女性たちとも交流の場を持ちたいという意見が聞かれた。世代間交流だけではなく、多文化交流の視点を持ち、さらに範囲を広めた「未来ワタシ委員会」の実施や、団体での企画づくりに励んでいきたい。

(文学部芸術学科)

◇学生発信で犬の社会課題にチャレンジ

プロジェクト名	DO FOR DOGS in 明学
団体名	MG ハロードッグ
企画の目的	犬に関する社会問題を解決するため、NPO 団体でのボランティア活動や、啓発を目的としたイベントを開催する

実施概要

・動物愛護団体でのインターンシップ

犬の命が人間の身勝手さゆえに犠牲になる。それが「犬殺処分」である。人間が犬を簡単に扱えるモノとして捉えること、それがこの問題が生まれる大きな要因である。メンバーは、この問題を食い止め、犬殺処分ゼロを目指し活動している動物愛護団体で5日間のインターンシップを行った。殺処分を免れた犬たちやスタッフと関わり、この問題に取り組む重要性を感じた。



・啓発を目的としたイベント企画・開催

大学祭「戸塚まつり」で「犬が遊ぶおもちゃ」を来場者の方と一緒に作るイベントを企画・開催した。犬に関する社会問題が多くの人にとって身近であること、「自分事」として捉えてもらうために、ワークショップ形式で楽しく取り組める企画を考えた。

感想・活動を通して得た学び

・動物愛護団体でのインターンシップ

ペットショップで売っている犬や飼い犬としか接したことがなかったが、動物愛護団体にいる子犬たちが怯えるのを見て、一匹一匹育った環境がまったく異なることを学んだ。実際に現地に行かなければ体験できなかったことがたくさんあり、インターンシップに参加する意味を感じた。

・啓発を目的としたイベント企画・開催

犬が遊ぶおもちゃを来場者と一緒に作り、大盛況であった。大学内に初めて犬を連れてくることができ(ゲージに入れた状態)、多くの方が関心をもってくれた。活動を通して、犬が与える影響力はメンバーが予想していた以上に大きいことに驚いた。そして、犬に関する社会問題は、誰もが身近に関心を持ちやすいことに改めて気づかされた。



今後に向けて

インターンシップでは、講義や勉強会だけでは学ぶことができない犬殺処分の現状を知ることができた。また、イベント企画・開催では、来場者に犬に関する社会問題を提起することができ、メンバー自身も犬に関する社会問題の重要性を改めて感じた。活動を通して、この現状を多くの学生に伝えたいという気持ちが強まった。また、人間と身近な関係である犬をただ「かわいい存在」として捉えるのではなく彼らの背景にはさまざまな問題があることをより多くの学生に伝えたい。そして犬に関する社会問題を他人事ではなく、自分事として捉えてもらえるよう活動を続けたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇「貧困」を学ぶ ～インドでの住居建築活動を通じて～

プロジェクト名	GV (global village)
団体名	Habitat MGU
企画の目的	住居に問題を抱えた家庭に、安心して暮らせる家を安価に提供する

実施概要

2017年3月6日～3月17日までの11日間、インドのバンガロールにて住居建築活動を行った。Habitat MGU に所属するメンバー13人で活動を行い、4軒の家を建てるプロジェクトに携わった。貯水庫を作ったり、家の基礎となる穴を掘ったり、セメントを使って家の壁となるブロックを積むといった作業を行った。

実際に現地に行く前後には、週に1～2回ミーティングを行った。ミーティングではインドの言葉を勉強したり、インドの貧困についての勉強会を行ったり、ディスカッションを行ったりした。訪問後には、横浜商業高校にて報告会を実施した。



感想・活動を通して得た学び

インドでは発展した街並みやビルも見られた一方、そのすぐそばで今にも崩れそうな家、家族が全員暮らすには狭い部屋など、私たちの想像をはるかに超える状況で生活をしている人々がいた。

家を建てる活動は、その家の持ち主となる人(ホームオーナー)と一緒にを行う。私たちは支援する側で、ホームオーナーは支援される側である。ホームオーナーはかわいそうな状況に置かれていると想像

する人がほとんどだと思ひ、私達もそう思っていた。だが、一緒に建築活動をしていくうちに実はホームオーナーは今でも十分幸せだということに気づいた。幸せを私たちのものさしで決めてはいけないのだと学んだ。

今後に向けて

私たちの活動は世界から見たらとても小さなことだが、確かな一歩でもあると信じている。この活動が広がり、積み重なり、世界中の人々が安心して暮らせる家を持っている世界を目指して今後も活動していく。

(法学部法律学科)



◇子どもたちへの読み聞かせ活動

プロジェクト名	小学校読み聞かせプロジェクト
団体名	おはなしポップコーン
企画の目的	子どもたちへの読み聞かせを通して、本の楽しさや面白さに触れてもらう

実施概要

子どもたちの読書離れの現状を踏まえ、本の面白さや楽しさに触れてもらうために、小学校や学童での読み聞かせ活動を行った。1年間の活動を通して20クラス、合計500名以上の子どもたちに読み聞かせることができた。また夏には福島県相馬市を訪問し、読み聞かせと被災地視察を行った。



感想・活動を通して得た学び

活動を通して、読み聞かせや絵本の素晴らしさを改めて学んだ。また、子どもたちや相馬市の方々とは絵本を通してつながることができたことは、一生の宝となる経験になった。

今後に向けて

たくさんの人々とのつながりを大切に、活動を継続させていきたい。

(心理学部教育発達学科)



◇明学防災プロジェクト

プロジェクト名	明学防災プロジェクト
団体名	Wゼミ学生
企画の目的	明治学院大学の防災啓発

実施概要

- 2017年2月 熊本へ訪問
 2017年5月～ 東京都港区高輪地区総合支所協働推進課協働推進係の「たかなわ地域防災研究事業」へ企画検討会メンバーとして参加
 2017年9月～ Wゼミ社会人メンバーへの防災についてのアンケート



感想・活動を通して得た学び

ボラチャレを通して、さまざまな方と出会うことができた。その出会いのなかで、同じ思いを共有したり、勉強させていただいたり、豊かなかけがえのない経験をすることができた。また、誰かのために“一生懸命”な人たちとの出会いは、私たちにとって非常に良い刺激になった。関係者の皆さま、ありがとうございました。

今後に向けて

今後も引き続き、明治学院大学の学内の防災について、学び、考え、行動していきたいと考えている。また、くまモンクッキーについても携わっていきたい。そして、ボラチャレを通して出会えた方々とのご縁を大切にしていきたい。

(社会学部社会福祉学科)



◇シリア難民のサポートと相互理解促進

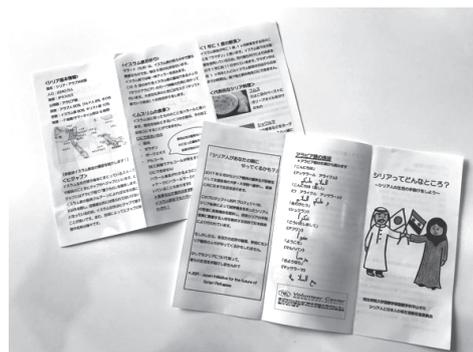
プロジェクト名	シリア人と日本人の相互理解促進委員会
団体名	転原バンドゼミ
企画の目的	シリア難民の日本での生活の手助けと日本人のシリア人に対する理解の促進

実施概要

日本で生活を送っているシリア人へのインタビュー・アラビア語学習・アンケートによる意識調査・パンフレット作成。

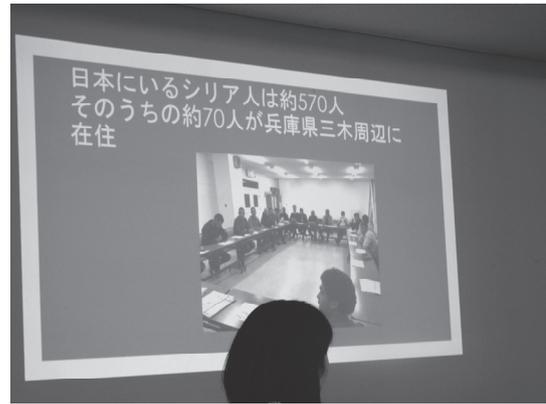
感想・活動を通して得た学び

シリア人の方が文化の違う日本で、どのように日本の文



化とシリアの文化に折り合いをつけて生活しているかということがわかった。パンフレットを作成することでシリア難民だけではなく日本在住の外国人がどのような問題を抱えていて、どのように彼らと上手く付き合っていくかを考えるよい機会になった。

また、日本人を対象としたシリア・イスラームに対しての意識調査としてアンケートを行ったことで、多くの日本人学生がシリア・イスラームに対してどのようなイメージを持っているのかということ把握できた。このアンケート結果から、日本人に対してどのようにアプローチすればシリア難民に対する理解を促せるかを考え、日本人向けパンフレットをより親しみやすいように、わかりやすいようにできるかを考えた。シリア人の方との対話やアラビア語学習を通じて、アンケートで得られたようなシリアへのイメージが薄れていたため、新たに考え直すきっかけになった。



今後に向けて

パンフレットは完成したが、配布段階まで至っていないので配布を中心に今後も活動を続けていく。配布場所として、横浜市内のNGO 団体などをはじめ、受け入れ大学等に交渉する予定である。また、配布後の影響について配布場所においてアンケート調査等を行いたいと思う。

さらに来年春から新たなプロジェクトとして、明治学院大学大学院においてもシリア難民の受け入れが始まるので、彼らのサポートをできるように努めていこうと思う。彼らが日本での生活において難民というステータスを背負うことなく、気兼ねなく過ごせるようにサポートしていきたい。

(国際学部国際学科)

(国際学部国際学科)

◇長期的な視点と学習支援

プロジェクト名	The Class for CCC (Communication, Cooperation & Confidence)
団体名	The Place for Children かわさき
企画の目的	貧困解決

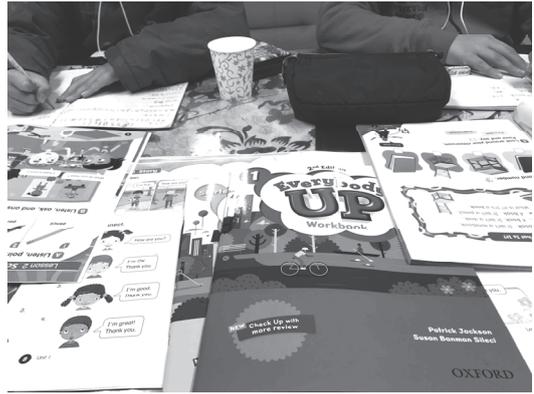
実施概要

フードバンクかわさきさんにご協力いただき、フードバンクかわさきさんのご支援を受けているご家庭のお子様を対象に学習支援を行った。2017年1月から10月までに月に3度のペースで一コマ1.5時間英語の授業をフードバンクかわさき事務所にて実施した。授業には英語圏の子どもたちが国語の勉強に使用するテキストを使用し、テキストでの学習範囲を同シリーズのワークを使い確認した。



感想・活動を通して得た学び

アルファベットから学んできた生徒が、今では簡単な会話やライティングができるようになり、何よりも、元は漠然としたイメージしか持っていなかった英語に対し、自ら学びを深めたいという気持ちを持つようになったことに、この活動の意義があったと感じる。まだまだ活動開始から日が浅いが、中学から本格的に始まる学校での授業に備えることで、他の教科や趣味に費やす時間の余裕が生まれ、それが将来彼ら自身の選択肢の幅が広がることに通ずるという長期的な目標をもち、今後も活動を行っていきたく強く感じた。



活動するうえで最も苦戦したのは、生徒の募集であった。広告を作り配達に行くという手段をとったが、場所や時間の関係、また内容にも実際のニーズに即していないという問題があったかもしれない。ボランティア団体としては、今後活動を続けていくうえで活動の範囲を広げ、より多くの子どもたちと活動したいと考えているが、これが非常に難しいことであると学ぶことができた。ただ、この運営の難しさと楽しさを知る機会を与えていただいたことは、必ず今後の糧になるだろうと確信している。

今後に向けて

まずは、現在活動場所がフードバンクかわさき事務所の一か所のみであるため、その近くに住む生徒しか通うことが難しいという問題を解決するため、津田山駅近くのフリースペースや、以前フードバンクかわさきさんのスタッフの方からお話があった鶴見の方面にある児童館などの使用を検討していく。また、今回の反省を踏まえ、より多くの方と直接話をできるような広報の方法を検討したい。まずはこのような取り組みを進めることで生徒を募集し教室を作り、The Place for Children かわさきの組織化を行い今後も活動を継続していきたい。学習支援はすぐに結果が出るものではなく、進学後かもしれないし、就職後に出るのかもしれない。結果が現れるのはかなり遠い未来かもしれないが、活動を行った結果として最終的に子どもたちの人生がさらに充実していくように、現時点のものではあるが、自信と根拠を持って活動をしていきたいと思う。

(文学部英文学科)

12.2 ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2017 採択団体一覧

2017年度の募集は「社会課題にチャレンジ!」をテーマとし、書類審査・面談を経て六つのプロジェクトが採択された。各受賞団体に奨励金が授与され、2018年9月末日までそれぞれの活動を行う。各団体は、部門によって活動報告会での発表や活動報告書を提出し、今後につなげるため自分たちの活動を振り返ることが求められる。

●2017年度助成企画【スタートアップ部門】

プロジェクト名	団体名
FYS ライブパフォーマンス	For Your Smile
1日でできる手話講座	ハム
Do for 子ども食堂	E.S.S.地域貢献部

●2017年度助成企画【ジャンプアップ部門】

プロジェクト名	団体名
人と犬、つなぎ・つながるプロジェクト	MG ハロードッグ
学生のチカラで、笑顔“ニユンニヤム”を守ろう、広げよう!	ニユンニヤム
三つ折りパンフレット	明治学院大学任意団体 NPO 法人 JUNKO Association